

Ⅲ モニターの結果のポイント

1 モニターの実施者

- 実施者の性別は「男性」4割、「女性」6割、女性が男性を若干上回っています。平均年齢は79歳、年齢区分は「79歳以下」56%、「80歳以上」44%、80歳を境にほぼ半々の割合です。住まいは9割の人が「一戸建て」に住んでいます。
- 今回のモニターでは同居世帯は対象にしなかったため、世帯形態は「ひとり暮らし」と「高齢者夫婦世帯」が半分ずつです。

2 モニターからわかったこと（※詳細は、本報告書「Ⅲ-3 本編」P.15を参照してください）

(1) 日々の暮らしと支援が必要なときの対応

- 何かあったとき、ほとんどの人は親族に連絡ができ、来てもらうことができます。
- しかし、「孤独になること」に不安を感じている人も17%います。

- 実施者の健康状態は良好で、4人に1人（24%）は健康状態が「良い」と回答し、8割以上の人が「普通」より良い状態で暮らしています。
- 近所づきあいは親密で、相互に「行き来している」人が全体の7割弱を占めています。

- また、日常生活において、急な病気やケガをしたり、誰かの手伝いが必要になったときには、ほとんどの人が（97%）、親族に来てもらったり、親族に連絡することができると回答しています。しかし、「日頃の不安」についての質問では、「孤独になること」に不安を感じている方が17%いましたので、この点について留意することも必要です。
- 会員の皆さんの健康や地域における相互の交流は、今後「暮らし支え合い」を展開するための基盤でもあります。老人クラブの場合、こうした条件は十分整っていると考えられますが、今後もできるだけ長く維持していくことが必要だと思われます。

(2) 手伝ってもらいたいこと

- 手伝ってもらいたいことがある人は、現在は55%ですが、近い将来は増加し75%です。
- すべての選択肢において、近い将来の回答割合が現在を上回っています。
- 手伝ってもらいたいことがある人は、女性、高齢者層、ひとり暮らし、健康状態が良くない人に多くなっています。
- 手伝ってもらいたいことの内容は、現在では「庭木の手入れ」（23%）、「電球や蛍光灯などの交換」（18%）など暮らしの中で時々必要になる項目が多くなっています。近い将来では「声かけ（安否確認）」（34%）、「庭木の手入れ」（33%）など、時々必要になる項目に加え、日々の暮らしを維持するために必要な項目も多くなっています。

- 現在、誰かに手伝ってもらいたいことが「ある」と回答した人は55%です。そのうち「声かけ・話し相手のみ」を希望している人が、年齢や健康状態に関係なく一定割合（6～10%）います。これに対し「声かけ・話し相手」以外の手伝いを希望している人が約半数（48%）います。傾向として、女性、高齢者層、ひとり暮らし、健康状態が良くない人に多くなっています。また、現在、手伝ってほしい主な項目をみると、「庭木の手入れ」23%、「電球や蛍光灯などの交換」18%、「草取り」17%、「声かけ（安否確認）」17%などで、暮らしを維持するために時々必要になる項目が多くなっています。
- また、近い将来、手伝ってもらいたいことが「ある」と回答した人は75%です。そのうち「声かけ・話し相手のみ」を希望している人が、年齢や健康状態に関係なく1割前後います。これに対し「声かけ・話し相手」以外の手伝いを希望している人は65%います。傾向として、前述の現在の希望者と同様、女性、80歳以上、ひとり暮らし、健康状態が良くない方に多くなっています。また、近い将来、手伝ってほしい主な項目をみると、「声かけ（安否確認）」34%、「庭木の手入れ」33%、「話し相手」26%、「草取り」26%、「電球や蛍光灯などの交換」25%などで、暮らしを維持するために時々必要になる項目とともに、日々の暮らしを維持するための項目も多くなっています。

す。

- 上記の手伝ってもらいたいことについて、現在と近い将来の回答を比べると、手伝ってもらいたいことがある人は現在よりも近い将来に 20 ポイント多くなっています。また、すべての選択肢において近い将来の回答が現在よりも多くなっています。

(3) 手伝ってもらいたいことが「ない」理由

- 手伝ってもらいたいことが「ない」人は 45% です。
- その理由として、「他人に迷惑をかけたくない」人が 2 割おり、健康状態が良くない人、近所づきあいが少ない人に多くなっています。

- 現在、手伝ってもらいたいことが「ない」と回答した人は 45% います。その理由としては、「いま特に困っていることはないから」が 7 割を占めています。次いで「他人に迷惑をかけたくない」が 2 割います。後者の傾向として、健康状態が良くない人、近所づきあいが少ない人に多くなっています。

(4) 手伝えること

- 手伝えることがある人は、現在は 82% ですが、10 年後の回答は減少し 46% です。
- 手伝える人は、若い年齢層、健康状態が良い方に多くなっています。
- 手伝える内容としては、現在は「声かけ（安否確認）」（68%）、「話し相手」（65%）、10 年後は「声かけ（安否確認）」（36%）が回答の多い項目です。
- 10 年後も「声かけ・話し相手」ができる人は減少しませんが、それ以外の項目ができる人は減少します。しかし、「声かけ・話し相手」だけであれば、高齢になって体が弱くなくてもできる人が 3 割います。

- 現在、手伝えることが「ある」と回答した人は 82% います。そのうち「声かけ・話し相手のみ」なら手伝えることができる人が 26% で、85 歳以上の高齢者や、健康状態が「良くない」人でも 3 割ができると回答しています。これに対し「声かけ・話し相手」以外の手伝いができる人は 57% で、若い年齢層、健康状態が良い方に多くなっています。また、現在、手伝える主な項目としては、「声かけ（安否確認）」68%、「話し相手」65%、「ゴミ出し」34%などで、日々の交流に関する項目が多くなっています。
- 10 年後、手伝えることが「ある」と回答した人は 46% います。そのうち「声かけ・話し相手のみ」なら手伝えることができる人が 24% で、前述の「現在」と同様、85 歳以上

の高齢者や、健康状態が「良くない」人でも2割の方ができると回答しています。「声かけ・話し相手」以外の手伝いができる人は22%で、79歳以下、健康状態が良い人に多くなっています。また、10年後、手伝える主な項目としては、「声かけ(安否確認)」36%、「話し相手」11%、「家電製品の取り扱い、修理」9%などで、日々の交流のための項目が多くなっています。

- 手伝えることについて、現在と10年後を比べると、「声かけ・話し相手のみ」であれば手伝える人は横ばいで、10年後の回答でも1.8ポイントの減少に留まっています。「声かけ」や「話し相手」といった日々の交流のための項目は、長期間継続できる手伝いと考えられます。これに対し「声かけ・話し相手」以外の手伝いができる割合では、10年後の回答は減少しています(34.9ポイント減)。実施者の平均年齢が79歳であることをふまえると、「声かけ・話し相手」以外の手伝いについては、今後の予想が難しいという事情があるものと思われま

(5) 「手伝ってもらいたいこと」と「手伝えること」の比較

■現在は、手伝える人が手伝ってもらいたい人よりも多くいます。しかし、近い将来(10年後)は、手伝ってもらいたい人が手伝える人を上回ります。

■現在は健康な人も、近い将来は手伝ってもらいたいと回答した人が多くいます。

- 現在、手伝えると回答した人は82%で、手伝ってもらいたい人の55%を上回っています。しかし、近い将来(10年後)の予想回答では、手伝ってもらいたい人は75%で20ポイント増加しますが、手伝える人は46%で36ポイント減少しています。
- ただし、「声かけ・話し相手のみ」であれば、現在も近い将来(10年後)も手伝える人が手伝ってもらいたい人の割合を上回っています。
- また、手伝ってもらいたいこと(の有無)を健康状態別で見ると、現在は、健康状態が良い人に希望者が少なく「良い」が44%、「良くない」が62%です。しかし、近い将来では、健康状態が「良い」人の手伝ってもらいたい回答が69%に増加しています。
- 次に、手伝えること(の有無)を健康状態別で見ると、現在、10年後ともに、健康状態が悪い人に手伝える回答が少なくなっています。これは「声かけ・話し相手」以外のことを手伝える人が減少したことによ
- こうした結果からは、「声かけ・話し相手のみ」の希望に応じる協力者を継続的に確保することはできるものと予想されますが、「声かけ・話し相手」以外の手伝いにおいては、今後若い会員の加入が続かないと、現在の実施者の加齢とともに手伝えるこ

と（人）は減少していくこととなります。

(6) 「暮らし支え合い」を広げていくために必要なこと

- 必要なこととしては、「日頃から声かけや交流の機会を増やす」（86%）、「無理をしない」（59%）、「若い（非会員）にも協力を呼びかける」（44%）が回答の多い項目です。
- 全般的な回答割合が「声かけ・話し相手」以外の手伝いができる人に多く、「暮らし支え合い」への関心度や参加度も高いと思われます。

- 今後「暮らし支え合い」を広げていくために必要なこととしては、老人クラブの目的とも共通する「日頃から声かけや交流の機会を増やす」が最多で86%です。これは日常のクラブ活動をより一層充実することで実現可能です。次いで「無理をしない」59%、「若い人（非会員）にも協力を呼びかける」44%、「無償でおこなう」31%などとなっています。支援する側と支援を受ける側の双方への配慮が求められています。
- また、「暮らし支え合い」を広げていくために必要なことについて、現在、手伝えることの有無別で集計すると、「声かけ・話し相手」以外の項目について手伝えることができる人は、手伝えることが「ない」人の回答割合を上回っています。実施者の健康状態や「暮らし支え合い」を前向きにとらえている姿勢が回答に反映しているものと考えられます。今後、「暮らし支え合い」に前向きな会員の皆さんの発掘や働きかけが必要と思われます。

(7) 日頃「不安」に思うこと

- 「声かけ・話し相手」以外の手伝いを希望する人の「不安」に関する回答割合が多くなっています。
- 主な不安としては、「病気になること」（79%）、「介護が必要になること」55%、「身の回りのことができなくなること」（49%）など、健康状態や日常生活の維持に関する回答が多くあげられています。

- 日頃「不安」に思うことが「ある」人は92%います。その主な内容としては「病気になること」79%、「介護が必要になること」55%、「身の回りのことができなくなること」49%、「家事ができなくなること」40%、「災害時（緊急時）の対応」36%などで、健康状態や日常生活の維持に関する項目が上位にあげられています。

- 日頃「不安」に思うことについて、現在、手伝ってもらいたいことの有無別でみると、全般的に「声かけ・話し相手」以外の手伝いを希望する人の回答が、手伝いを希望しない人に比べ多くなっています。手伝ってもらいたいことがあるという生活状況と日頃の「不安」の有無は、その原因において共通している部分が多いものと考えられます。
- また、健康状態別でみると、全般的に健康状態が良くない人に「不安」に思うことの回答割合が多くなっています。なかでも「介護が必要になること」「身の回りのことができなくなること」「家事ができなくなること」「災害時（緊急時）の対応」は、健康状態による差が大きくなっています。
- 「暮らし支え合い」が、日頃の「不安」のどの部分に対応できるか、手伝えることの内容を検討することが必要です。

3 モニターの集計結果の概要

(1) 基本属性（表1）

- 居住地は、「市」56.5%、「区」24.8%で、市・区が8割です。
- 性別は、「男性」4割、「女性」6割です。
- 年齢は、「79歳以下」55.8%、「80歳以上」44.2%です。平均年齢は78.8歳。
- 世帯は、「ひとり暮らし」と「高齢者夫婦世帯」がともに約48%です。
- 住まいは、「一戸建て住宅」が9割を占めています。

表1 基本属性

質問項目	選択肢	回答結果	
居住地	市	56.5%	
	区	24.8%	
	町	17.0%	
	村	1.7%	
性別	男性	41.4%	
	女性	58.6%	
年齢	79歳以下	55.8%	
	80-84歳	30.1%	
	85歳以上	14.1%	
	平均年齢	全体	78.8歳
		男性(最高齢98歳)	79.3歳
女性(最高齢97歳)		78.5歳	
世帯 (同居世帯は除外)	ひとり暮らし	47.9%	
	高齢者夫婦世帯	47.6%	
住まい (二世帯住宅は除外)	一戸建て住宅	89.8%	
	自動ロック式のマンション	1.1%	
	集合住宅(自動ロック式を除く)	7.6%	

※実施者は2,902人。

(2) 健康状態と近所づきあいの程度（表 2）

- 健康状態は、「良い」が 24.3%です。次いで「まあ良い」 29.6%、「普通」 31.0%で中間層が 6 割です。「普通以上」の方は 8 割以上を占めています。
- 近所づきあいの程度は、「よく行き来している」が半数（49.4%）、「時々行き来している」 17.4%で、「行き来している」合計は 66.8%です。

表 2 健康状態と近所づきあいの程度

質問項目	選択肢	回答結果
健康状態	良い	24.3%
	まあ良い	29.6%
	普通	31.0%
	あまり良くない	12.7%
	良くない	2.4%
近所づきあいの程度	よく行き来している	49.4%
	時々行き来している	17.4%
	会えば世間話しをする	25.2%
	あいさつをかわす程度	7.1%
	つきあいはほとんどない	1.0%

※実施者は 2,902 人。

(3) 困ったときの支援について（表 3）

- 「急な病気やケガのとき、すぐに自宅にかけつけてくれる人」が「いる」は 97.2%です。
- 「いる」 2,820 人の内、かけつけてくれる人の内容は、「子ども・その家族」 66.0%、「兄弟姉妹・その家族」 12.7%で、約 8 割が親族です。このほか「近所の人」が 10.5%います。
- 「日常生活で手伝いが必要になったとき、連絡できる人」が「いる」は 97.9%です。
- 「いる」 2,842 人の内、連絡できる人の内容は、「子ども・その家族」 69.6%、「兄弟姉妹・その家族」 12.8%で、約 8 割が親族です。このほか「友人」 7.1%などとなっています。

表3 困ったときの支援について

質問項目	選択肢		回答結果
急な病気やケガのとき、すぐに自宅にかけつけてくれる人の有無	いる (N:2,820)		97.2%
	内容 N:2,820 が100	子ども・その家族	66.0%
		兄弟姉妹・その家族	12.7%
		友人 (N:232)	8.2%
		N:232 の内、老人クラブ会員	52.2%
	近所の人		10.5%
いない		2.8%	
日常生活で手伝いが必要になったとき、連絡できる人の有無	いる (N:2,842)		97.9%
	内容 N:2,842 が100	子ども・その家族	69.6%
		兄弟姉妹・その家族	12.8%
		友人 (N:202)	7.1%
		N:202 の内、老人クラブ会員	53.0%
	近所の人		6.9%
いない		2.1%	

※実施者は2,902人。

(4) 「手伝ってもらいたいこと」について (表4)

- 「現在、手伝ってもらいたいこと」 (表4のA) が「ある」は54.7%です。
- 「現在、手伝ってもらいたいこと」の内容は (複数回答)、「庭木の手入れ」が最も多く22.6%、次いで「電球や蛍光灯などの交換」17.6%、「草取り」17.3%、「声かけ (安否確認)」16.9%などとなっています。
- これに対し「現在、手伝ってもらいたいこと」が「ない」45.3% (1,316人) の理由としては (複数回答)、「いま特に困っていることはないから」73.7%、「他人に迷惑をかけたくない」18.1%などとなっています。
- また、「近い将来、手伝ってもらいたいこと」 (表4のB) が「ある」は75.0%です。
- その内容としては (複数回答)、「声かけ (安否確認)」が最も多く33.9%、次いで「庭木の手入れ」32.5%、「話し相手」25.7%、「草取り」25.6%などとなっています。

表4 「手伝ってもらいたいこと」について

質問項目	選択肢		回答結果	
			現在 (A)	近い将来 (B)
手伝ってもらいたいこと	ある（全体－ない）		54.7%	75.0%
	内容 N:2,902 が100	声かけ（安否確認）	16.9%	33.9%
		話し相手	13.0%	25.7%
		ゴミ出し	6.2%	15.9%
		家具の移動	14.9%	21.8%
		電球や蛍光灯などの交換	17.6%	24.8%
		家電製品の取り扱い、修理	15.7%	21.5%
		草取り	17.3%	25.6%
		庭木の手入れ	22.6%	32.5%
		買い物の付き添い	6.3%	15.7%
		食事のしたく	6.0%	17.5%
		インターネットによる情報の収集	3.8%	5.5%
	ペットの世話	0.9%	1.7%	
	ない（N:1,316）		45.3%	25.0%
	内容 N:1,316 が100	いま特に困っていることはないから	73.7%	
手伝ってもらうことに抵抗を感じる		1.4%		
他人に迷惑をかけたたくない		18.1%		
わずらわしいから		2.2%		
プライバシーを知られたくない		1.1%		

※実施者は2,902人。

(5) 「手伝えること」について（表5）

- 手伝いを求められた場合、「現在、手伝えること」（表5のC）が「ある」は82.4%です。
- 「現在、手伝えること」の内容は（複数回答）、「声かけ（安否確認）」が最も多く68.1%、次いで「話し相手」64.6%、「ゴミ出し」33.6%などとなっています。
- また、「10年後、手伝えること」（表5のD）が「ある」は45.7%です。
- その内容としては（複数回答）、「声かけ（安否確認）」が最も多く36.5%、次いで「話し相手」36.0%、「ゴミ出し」11.1%、「草取り」9.2%などとなっています。

表5 「手伝えること」について

質問項目	選択肢		回答結果	
			現在 (C)	10年後 (D)
手伝えること	ある（全体一ない）		82.4%	45.7%
	内容 N:2,902 が100	声かけ（安否確認）	68.1%	36.5%
		話し相手	64.6%	36.0%
		ゴミ出し	33.6%	11.1%
		家具の移動	7.6%	2.3%
		電球や蛍光灯などの交換	13.3%	3.7%
		家電製品の取り扱い、修理	4.9%	2.4%
		草取り	25.0%	9.2%
		庭木の手入れ	11.5%	4.6%
		買い物の付き添い	25.1%	6.7%
		お惣菜のおすそ分け（食事のしたく）	22.2%	6.8%
		インターネットによる情報の収集	4.4%	1.3%
	ペットの世話	3.8%	1.4%	
ない		17.6%	54.3%	

※実施者は2,902人。

(6) 「暮らし支え合い」を広げていくために必要なこと（表6）

- 今後「暮らし支え合い」を広げていくために必要なこととしては（複数回答）、「日頃から声かけや交流の機会を増やす」が最も多く86.1%です。次いで「無理をしない」58.5%、「若い人（非会員）にも協力を呼びかける」44.0%、「無償でおこなう」31.0%などとなっています。

表6 「暮らし支え合い」を広げていくために必要なこと

質問項目	選択肢	回答結果	
「暮らし支え合い」 を広げていくために 必要なこと	日頃から声かけや交流の機会を増やす	86.1%	
	どんなことに困っているか調べる	28.7%	
	お手伝いできることを知らせる	25.5%	
	利用料を決める(N:219)	7.5%	
	N:219 が100	うち、現金	31.1%
		うち、チケット・ポイント制	39.7%
	無償でおこなう	31.0%	
	わかりやすいルールをつくる	20.1%	
	無理をしない	58.5%	
若い人（非会員）にも協力を呼びかける	44.0%		

※実施者は2,902人。

(7) 日頃「不安」に思うこと（表7）

- 日頃「不安」に思うことが「ある」は92.1%です。
- 「不安」の内容は(複数回答)、「病気になること」が最も多く78.7%、次いで「介護が必要になること」54.8%、「身の回りのことができなくなること」48.7%、「家事ができなくなること」39.5%、「災害時（緊急時）の対応」36.0%などとなっています。

表7 日頃「不安」に思うこと

質問項目	選択肢	回答結果	
日頃「不安」に 思うこと	ある（全体－ない）	92.1%	
	内容 N:2,902 が100	収入が減ること	27.1%
		支出が増えること	18.8%
		財産管理のこと	6.9%
		病気になること	78.7%
		介護が必要になること	54.8%
		身の回りのことができなくなること	48.7%
		家事ができなくなること	39.5%
		外出の機会が少なくなること	21.1%
		回覧物や書類がわかりづらいこと	11.1%
		行政や金融機関などの申請、手続き	17.0%
		孤独になること	17.4%
		孤独死（孤立死）	12.9%
		交通事故にあうこと	19.3%
		悪質商法にだまされること	7.1%
		犯罪の被害にあうこと（悪質商法以外）	7.0%
		災害時（緊急時）の対応	36.0%
		配偶者のこと	19.5%
住宅の整備が不十分	7.6%		
ない	7.9%		

※実施者は2,902人。